昨年12月、徳島県立二十一世紀館において「人権に関する児童生徒の作品」の表彰式および発表会・展示会が行われました。

平成27年度「人権に関する児童生徒の作品」

徳島の未来を担う子どもたちが「人権」と向き合い、自分なりに考えるきっかけをつくるため、あいぽーと徳島では「人権に関する児童生徒の作品」を毎年県内の児童生徒から募集しています。
意見発表に係る作文、作詩・作曲、標語ポスターの3部門に、67,725点という数多くの応募があった中から、**知事賞を受賞した作品**を紹介します。

主催／徳島県・徳島県教育委員会・徳島県立人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）　後援／徳島県小学校長会／徳島県中学校長会／徳島県高等学校長協会／徳島県人権教育研究協議会

意見発表に係る作文部門　知事賞

人として誇れる生き方を

福井中学校　三年　四宮　彩花

「あるひとの差別はあってはならないと思うでしょ。」これは、昨年の人権劇でルカが演じた役の中のセリフです。差別解消を目指して生まれた福井中学校の人権劇には、三年を超える伝統があります。それは、私たちにとって大きな誇りであると同時に、実は、伝統を汚すわけにはいかないというプレッシャーを感じるものでもあるのです。

特に、私たちの場合は、九人というこれまでにない少人数で取り組まなければなりませんでした。だから、「先輩方のように、大勢の人たちの前で堂々と演じることができるだろうか。そもそも私たちの力で大丈夫なのだろうか。」次から次に湧いてくる不安を抱えたまま、私たちの人権劇はスタートしました。そして、脚本を手にしたときも、私の中にはまだ、不安な思いが残ったままでした。ところが、配役が決定し、自分の役柄のセリフを読んでいるうちに、「やるしかない。精一杯にやろう。」そんな気持ちが大きくなっていったのです。

私が演じることになったのは、穏やかで優しく、でも肝っ玉があるさんといった感じの頼りになるお母さんの役です。ハンセン病をテーマにしたこの人権劇の中で、私がハンセン病に対する差別の厳しさを語る場面が ありました。私はこの場面で、覚えたセリフを口にするだけでは、見ている方に伝わらないのではないかと考えました。そこで、「ハンセン病について自分なりに理解してみよう」と思ってみることにしました。すると、私の想像をはるかに超えた過酷な差別が存在していることがわかりました。

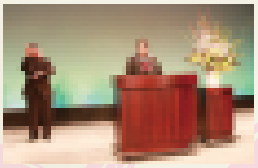
ハンセン病は、とても恐ろしい病気だと考えられていました。病気にかかったとわかると、本人の意思には関係なく強制的に隔離されてしまいます。そして、家族にも会えないまま、その土地で生涯を終える人もいるなくらいです。恐ろしい病気だと思い込まれ、病気にかかった人だけでなくその家族をも傷つけ、差別の対象とされたハンセン病ですが、薬が開発され、実際には非常に感染力が弱いのだということがわかってきました。ところが、いったん差別の対象とされたものは、なかなか正しい理解されないという不合理な現実があることもわかりました。人間のもつ、とても醜く嫌な面を見た気がしました。でも、だからこそ正しいことを伝えたいという思いが強くなっていきました。

夕方遅くまで続けられた補習を通して、私たちの意識はどんどん高まっていきました。互いにアドバイスし合ったり、脚本にはなかったセリフやアドリブを考えたりするうちに、人権劇になくてはならないものになっていくようになりました。

はさせられているものではなく、自分たちが作り上げたものであり、そんな温かさに触れたことは、私たちにとって大きな力となりました。

このような人の優しさや温かさの一方で、頻発しているいじめ。そして、自分のうっぷんを晴らすために無差別に人を傷つけ、「気に入らないから」と、暴力をふるったり命を奪ったり、なぜ、そんなことが繰り返されるのでしょう。でも、それは決して他人事ではありません。例えば身近なところでは、間違っているとわかっているのに見て見ぬふりをし、結局周りに流されてしまう……。そんな「自分には関係がない」という無関心さが差別を生み、人々を、そして、自分自身を苦しめることにつながっているのです。このように、私たちが向き合い考えなければならないことは、たくさんあります。私の中にもある偏きや弱さ、それらをどう克服していくか、それが学ぶことであり、人とのつながりを大切にすることなのではないでしょうか。

人権劇は、私になくさんの大切なことを教えてくれました。私は、学んだことを行動につなげていくこと、そして、これまで見過ごしてきた差別の芽や自分自身の弱さと向き合いながら、誰もが笑顔で過ごせる社会を作っていきたいです。「やっぱり、人として、恥ずかしくない生き方したいでえるね。」私がつぶやいたこのセリフのように。



大島青松園で学んだこと

城北高等学校　三年　白木　京実

私は城北高校の医学部で人形浄瑠璃をしていました。今日は、ハンセン病療養施設である香川県の大島青松園への訪問から学んだことをお話したいと思います。

城北高校は、二〇〇一年より毎年大島を訪問してきました。私が大島を訪れたのも、人形浄瑠璃の上演を通して、徳島県人会の皆さんと交流するためでした。私は、一昨年と昨年、計二回大島に行きました。

一昨年の私は、大島青松園のことやハンセン病について、ほとんど何も考えていませんでした。それでも大島青松園の皆さんはとても優しく、心から訪問を喜んでくれました。公演を見て泣いてくださった方もいました。最高齢の南部さんは、太夫の語りをきゃんしていて、目が見えないのに一緒にほぼさんでくれました。来てよかったなあ、ぜひ来年も来たいなあと思いました。

そんな私たちに、瞬間の先生が、虹をさすように「大島は特別な公演です」と言いました。人形の師匠からは、何度も「人形の心情に寄り添って」演じるようにと言われました。それらの言葉の意味が、私にはピンときていませんでした。

私たちが上演している「傾城阿波の鳴門／巡礼歌の段」は、親子の別れを描いています。わが娘に再会した母は、罪が娘に及ぶことを恐れて、泣く泣く娘を追い返します。一方、ハンセン病回復者の方もまた、大島に隔離されることで、親や家族と強制的に切れさせられたのです。回復者の方の境遇は「傾城阿波の鳴門」の親子の別れにぴったり重なるのです。

人形の心情に寄り添うことは、回復者の方の心情にも寄り添うことになる……。魂声を積むうちに、そのことが実感としてわかってきました。回復者の方が、人形に自分を重ね、何か感じてもらえるような演技をしたいと思いました。これは他の部員も同じだったと思います。その場の気持ちを細かく台本に書き入れている子もいました。

また、毎年大島でコンサートを開いている歌手の派知恵さんが城北高校に来て、ピアノ弾き語りのコンサートをしてくださいました。なかでも忘れられないのは、大島青松園の詩人、塔和子さんの詩に、派知恵さんが曲をつけた「胸の泉」という曲です。「かかわらなければ一」「かかわらなければ」。豊かな泉さんの口から何度も繰り返されるこのフレーズを聞いたとき、何とも言いようのない気持ちがこみあげてきました。何かを伝える、お手本として教えてくれているような気がしました。

次の夏、私たちは、わくわくしながら大島へ行きました。二回目の公演は、気持ちの乗った、いい公演になったと思います。派知恵さんもきっと、こうやって塔和子さんや回復者の皆さんの気持ちに寄り添いながら歌っていたんだと思いました。

あと、一年目の公演では、やらなかったことがあります。一あいさつまわり」と言って、公演が終わった後、人形を持って観客席を回るのです。私は、おつるちゃんの人形を持って、回復者の方ひとりひとりに挨拶しました。「どうでしたか？」と聞くと、泣きながら「ありがとう」と言って人形の手をギュっと握ってくれたり、喋ることの出来ない人でも、手を左右に元気に振ってくれたりしました。そのとき、本当の意味で「来てよかった」と感じました。

公演の後、回復者の方からの旨のお話をうかがいました。一昨年の私は、当時の話を聞いて、つらく思い、受け止めることが精一杯でした。しかし、二度目の訪問では、私たちが家族と生活ができ、当たり前のように学校で勉強できることの幸せを思いました。

私は、人形浄瑠璃や人権学習を通じて、人とかかわることの大切さを学んだ気がします。私は、いま学校で人権委員会の委員長をやらせてもらっています。一学期には、校内の集会で、みんなが笑顔でいられる場を作っていきたいという語りかけをしました。そして、将来は、看護の仕事に就きたいと考えて、いま受験勉強に励んでいます。

考えてみると、自分自身のことなのに自分の気持ちって案外わからなかったりします。ですが、積極的に他の人と出会い、その気持ちに触れることで、自分が今どこにいて、生きていることに、どんな意味があるのか実感できる気がします。きっかけはどんなことでもいいと思います。私にとっては人形浄瑠璃であり、人権学習だったのだと思います。

大島青松園は、緑が美しく、海はきれいで穏やかな場所でしたが、悲しい出来事があった場所でもあります。それを忘れることがないよう、回復者の皆さんの気持ちを受け継ぎ、そして次へと伝えていきたいです。

作詩・作曲部門　知事賞

川内中学校2年　作詩・作曲／小西彩加、浜中優那

「言葉の力を」～いじめを遠ざけよう～

*chorus1
Believe in the power of your tender words
They are the key to making your friends smile
Be there for your friends and brighten their days

*chorus2
たくさんあるよ　温かい言葉
大事にしようよ　すてきな仲間
笑顔にするよ　言葉がみんなを
信じようよ　言葉の力を

1st verse
独りで泣いていた　わたしに
“独りじゃないよ”と言ってくれた
独りで苦しんでた　わたしに
“一緒に頑張ろう”と言ってくれた
あなたの言葉が　元気をくれたよ

*chorus2

2nd verse
独りで泣いている　誰かに
“相談に乗るよ”と声をかけよう
独りで苦しんでる　誰かに
“君の味方だよ”と支えになろう
あなたの言葉は　勇気に変わってく

*chorus2

3rd verse
周りのみんなに伝えたい
“側にいてくれて　ありがとう”と
周りのみんなに伝えよう
“思い出を一緒に作っていこう”
互いの言葉で　つながっていける

*chorus1

阿南支援学校高等部　作詩・作曲　人権サークルさわやかクラブ

ピース

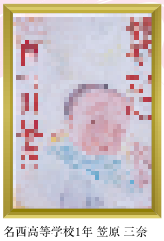
1. 友だちと笑いあえる　くだらないことで笑う
友だちと一緒に遊ぶ　楽しい時間はすぐ終わる
ときどきけんかもする　イヤだと思うこともある
気になる子がいるんだ　会うとドキドキする
たまにイヤなことgovn　でも　こっちを向いてほしいから
オンラインゲームつなぐ　見えなくてもそこにいる
ピース　ピース　ピース
世界の中に　学校の中に　お家の中に　友だちの中に
自分の中に　平和があるんだよ

2. 家族と一緒に笑う　テレビを見ながら笑う
家族と一緒にごはん　たまには外食ごはん
叱られることもある　一人でいたい時もある
できることは手伝う　「ありがとう」って言われる
今は一緒にいられる　でも　いつかは一人暮らし
そこにいてくれること　見守ってくれる安心
ピース　ピース　ピース
世界の中に　学校の中に　お家の中に　友だちの中に
自分の中に　平和があるんだよ

3. 自転車で学校へ行く　雨の日もカッパ着て行く
いじめや差別をしない　させない許さない
千羽鶴を折った　みんなで折るとすぐ千羽
仕事に就くためには　職業の時間に勉強
作業の時間に練習　でも　実習いったら難しい
みんなで給食食べる　農場の野菜おいしい
ピース　ピース　ピース
世界の中に　学校の中に　お家の中に　友だちの中に
自分の中に　平和があるんだよ

4. 卒業したら働く　仕事して貯金する
お金が貯まったら　ゲーム買う自分専用
車の免許を取る　乗るのはフェラーリBMW
将来の夢は何？　公務員になること
公務員は何するの？　でも　それはよくわからない
野菜の収穫をする　とうもろこし　おくら　ミニトマト
これは平和だからできること　平和ってなんだか難しい
戦争しないことだけじゃなく　近くにある平和
友だちに会えることや　家族と一緒にいることや
学校に毎日通えることや　夢がもてることさ
ピース　ピース　ピース
世界の中に　学校の中に　お家の中に　友だちの中に
自分の中に　平和があるんだよ

城ノ内中学校2年 村部 萌

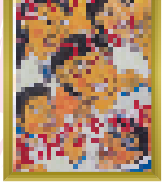


名西高等学校1年 笠原 三奈

城東高等学校1年 前川 智紗子

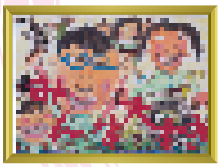
阿南支援学校中学部1年 中川 京香

千松小学校6年 笠井 祐里

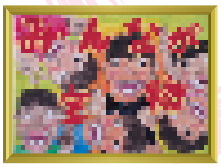


半島小学校5年 田中 兵庫

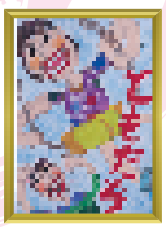
新開小学校3年 松本 雄介



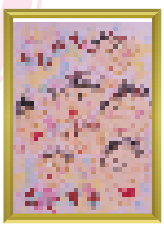
椿小学校4年 福垣 龍哉



川内北小学校2年 谷岡 柚



南小松島小学校1年 岸 怜生



標語ポスター部門　知事賞